

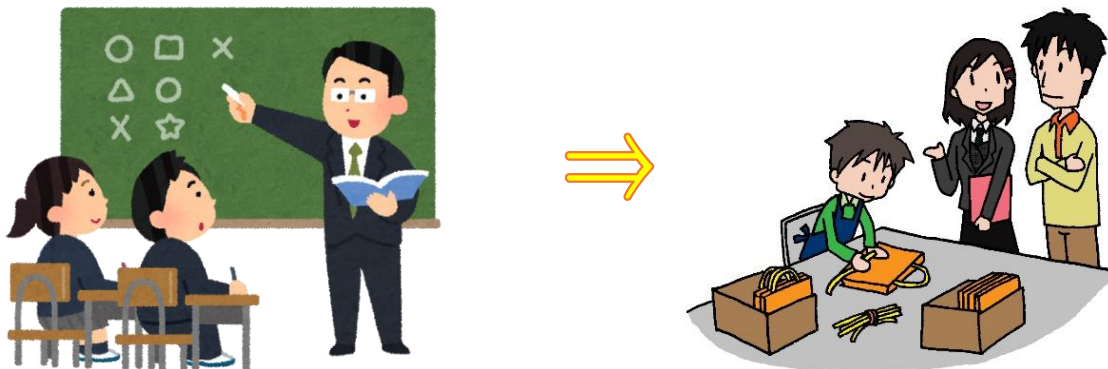
# TTAP とは・・・

ティ ー チ トランジッション ア セ ス メ ント プロフィール  
TEACCH Transition Assessment Profileの略称です

自閉症や発達障害などを持つ青年期や成人期の人々の能力を、様々な角度から評価する方法になります。  
(TEACCH はアメリカノースカロライナ州の教育福祉制度で、自閉症を持つ子供の視覚優位などの特徴を活かした教育方法で成果を上げています)



TTAP は本来、学童期を終える人が、学校生活から地域での生活へ移行するにあたって、支援者が強みや課題を正確に把握し、そこから必要な支援を導き出すために作られましたが、すでに学童期を終え、社会生活をしている人の生活の質を向上する上でも役立つ部分があります。



TTAP では、家庭での様子、学校または事業所での様子、検査者の前で課題に取り組む様子をそれぞれ「家庭尺度」「学校、事業所尺度」「直接観察尺度」と呼び、各尺度の中には 72 の評価項目があります。合計の評価項目は  $72 \times 3 = 216$  になります。

項目ごとの結果は「合格」「めばえ」「不合格」の3段階で評価しますが、やましな学園では「修得」「一部修得」「未修得」と呼び方を変えています。

「家庭尺度」は家族やグループホーム職員などから本人の様子を聞き、「学校、事業所尺度」は学校や事業所の職員から様子を聞きます。「直接観察尺度」は検査者の前で課題に取り組んでもらいます。



「直接観察尺度」「家庭尺度」「学校、事業所尺度」は、それぞれ 6 つの機能領域に分けられています。

- ① 職業スキル（作業や課題に対する理解力）
- ② 職業行動（作業や課題に対する集中力や持続力、間違いを修正された時に受け入れる能力など）
- ③ 自立機能（日付や時間の理解、着替えや食事など、生活に必要な知識と能力）
- ④ 余暇スキル（適切に余暇活動を楽しむ能力）
- ⑤ 機能的コミュニケーション（言語や図の理解、他者と意思疎通できる能力）
- ⑥ 対人行動（社会性や身近な人への態度など）

## 直接観察尺度の課題の例

### ＜職業スキル＞



#### 部品の仕分け

トレーに入った部品を、同じ種類ごとに仕分ける。

### ＜自立機能＞



#### 自動販売機の使用

適切な金額を入れ、商品を選び、ボタンを押し、商品とお釣りを取る。

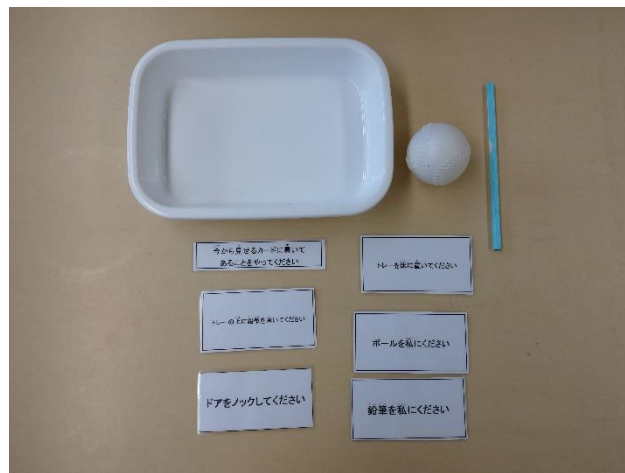
### ＜余暇スキル＞



#### 余暇の計画

行きたい場所を選び、その場所までの交通手段や必要な金額を言うことができる。

### ＜機能的コミュニケーション＞



#### 文字による指示の理解

カードに書かれた指示を理解し、実行することが出来る。

# 評価結果の集計

プロフィール(TTAP集計用紙)																			
京都市やましな学園 生活介護事業																			
氏名		性別 男								生年月日		//							
検査者氏名		検査年月日								令和4年10月1日									
得点																			
	職業スキル			職業行動			自立機能			余暇スキル			機能的コミュニケーション			対人行動			
	直接	家庭	事業所	直接	家庭	事業所	直接	家庭	事業所	直接	家庭	事業所	直接	家庭	事業所	直接	家庭	事業所	
12																			
11																			
10																			
9																			
8																			
7																			
6																			
5																			
4																			
3																			
2																			
1																			
一部修得	0	2	1	0	3	7	0	4	7	1	2	5	3	4	5	0	2	3	
修得	12	10	11	12	4	3	12	8	5	10	4	2	7	7	6	10	6	0	
スキル平均										尺度平均									
	職業スキル	職業行動	自立機能	余暇スキル	コミュニケーション	対人行動					直接観察	家庭	学校/事業所						
12										12									
11										11									
10										10									
9										9									
8										8									
7										7									
6										6									
5										5									
4										4									
3										3									
2										2									
1										1									
一部修得	1	3.33	3.67	2.67	4	1.67				一部修得	0.666666667	2.833333333	4.666666667						
修得	11	6.33	8.33	5.33	6.67	5.33				修得	10.5	6.5	4.5						

集計結果は分かりやすいように表にします。

過ごし方の違いなどもあり、家庭と事業所ではスキルや尺度にも違いが反映されることが多くあります。直接観察の評価時に初めて分かることもあります。

基本的には出来かけていること、「めばえ」にあたる「一部修得」（表のうすいグレーの部分）に着目し、力を伸ばすための支援方法を考えます。





＜検査の様子＞



＜評価の様子＞

## 評価結果を支援につなげる流れ

＜検査＞直接観察尺度の実施（ビデオ撮影）



＜評価＞検査時のビデオを見て、気づきや意見を取りまとめる



＜支援＞評価をもとに新たな取り組みを実施する

### 例 1

文字提示やモデリングよりも、検査者の反応を手掛かりに課題を理解しようとしていた場合

＜見立て＞

…普段から言葉や文字の説明を理解できていない可能性がある

＜支援の方向性＞

→本人にとって分かりやすい提示方法や環境設定を行う

→目で見て分かりやすいように環境設定し、人からの刺激を減らす



### 例 2

目新しい課題が次々と出て来ることで意欲が上がっていた場合

＜見立て＞

…新しい活動が追加されることでモチベーションが上がる

＜支援の方向性＞

→活動の意欲を高めるために毎日新しい活動を取り入れる



## やましな学園でここがけていること

出来かけていることに着目するだけでなく、課題実施中の様子や、行動パターンなど、評価項目に無い部分にも着目して支援の方向性を考えています。